“経営に知恵と革新”

令和４年９月１日発行（隔月発行）Vol.766 号

マネジメント コンサルタント

Management Consultant

2022年９月・１０月号

帝釈峡の紅葉
（広島県）

認定経営革新等支援機関
一般社団法人日本経営士会

第55回経営士全国研究会議
日程決定!!

中国支部 支部長　小原 啓子

隔年で開催される経営士全国研究会議は、2023年10月14日（土）・15日（日）、広島国際会議場にて開催の運びとなりました。次の主旨の下、進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

【メインテーマ】

理論と実践の融合
― 強い日本を創る ―

主旨

新型コロナウイルス感染症は、2020年初頭から世界中に感染が拡大しました。

私たちは、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックとこれがもたらした経済・社会への深刻な状況を経験し、危機的状況をも考慮に入れた合理的で持続可能な社会の構築が必要であることを学びました。

収束へのイメージを持つことができてきた昨今、ポストコロナ社会に向けての動きが始まっています。

技術の進展によりデジタル社会への移行が進み、経済社会の各面での分断と不安定が顕在化しましたが、世界共通認識としてSDGsの重要性が高まり、時代・社会に対応できるウェルビーイングと、その持続可能な開発目標に向けて「協調」する事が求められています。

さて、経営学という学問は、110年の歴史の中で、多くの災害や感染病、また戦争の時代を乗り越えて進化してきました。試練を乗り越えた今こそ、再度理論と実践を融合させ、その組み立てを再考する必要があるでしょう。

この度の経営士全国研究会議においては、コロナ脱却の時を迎え、目標を一致させ、理論と実践を融合させながら、それぞれの協調において新たに創り出される、次世代創造に向けての「新たな繋がり」が重要と考えます。

それこそが「強い日本を創り出し、新しい未来を創造」する事につながります。

今いる私たちは、時代のターニングポイントにいます。

さあ、いよいよ新しい時代の幕開けです。

（写真：開催会場　広島国際会議場）

INDEX

臨時社員総会報告 ・・・・・・・・・2
定款一部変更 ・・・・・・・・・3
理事会通信 ・・・・・・・・・4
令和４・５年度委員会・事業部委員一覧表 ・・・・・・・・・5
論文募集 ・・・・・・・・・6
第55期経営士養成講座報告 ・・・・・・・・・8
産業能率大学・寄付講座・実施報告 ・・・・・・・・・10

事業部・委員会活動
　経営支援事業部 ・・・・・・・・・11
　経営支援事業部からのご挨拶 ・・・・・・・・・12
　CSR 環境事業部 ・・・・・・・・・14
　SDGs 事業部 ・・・・・・・・・15
NJK女性経営士の会 ・・・・・・・・・16

支部活動報告
　北関東支部　茨城県会 ・・・・・・・・・17
　北関東支部　新潟県会 ・・・・・・・・・18
　千葉支部 ・・・・・・・・・19
　南関東支部 ・・・・・・・・・20
　中部支部 ・・・・・・・・・22
インフォメーション ・・・・・・・・・25

マネジメントコンサルタント（Management Consultant）
発行所：一般社団法人日本経営士会

〒102-0084　東京都千代田区二番町12-12 B.D.A. 二番町ビル5F
Tel：03-3239-0691　Fax：03-3239-1831
https://nihonkeieishikai.com

表紙：帝釈峡の紅葉（広島県）

一般社団法人日本経営士会
令和4年度臨時社員総会議事録

9月2日（金）本部会議室にて令和4年度臨時社員総会が開催されました。ZOOMでの参加者も40名を超えました。大蔵理事の司会で、審議はスムーズに運び、下記のとおり決定いたしました。

開催日時　：　令和4年9月2日（金）　15：00 ～ 15：25
開催場所　：　一般社団法人日本経営士会　本部会議室（ZOOM配信あり）
東京都千代田区二番町12-12 B.D.A.二番町ビル5階　電話 03-3239-0691
出席理事　：　鈴木和男会長、岩井美喜夫副会長、近藤安弘専務理事、高橋直也業務執行理事、竹俣大介ブロック理事、大蔵充夫ブロック理事
ZOOM参加理事　：　児玉充晴業務執行理事、豊政茂業務執行理事、三品富義ブロック理事
ZOOM参加監事　：　廣瀬典仁監事、春原和夫監事
社員総数と出席者数　：　社 員 総 数　657名（過半数：329名）
出席社員数　508名（内訳）　本人出席数　10名
委任状提出者数　164名
書面議決権行使者数　334名

議　　案　：　第一号議案　定款一部変更の件

議長及び議事録署名人の選任について　：

鈴木会長の挨拶のあと、鈴木会長の指名で、近藤専務理事より成立要件について定款第20条第1項及び第21条第1項の規定により、総会成立に必要な社員数の過半数の出席を得て、令和4年度臨時社員総会は有効に成立した旨が告げられた。

定款第18条に基づき、鈴木会長が議長に就任し開会を宣言した。

また、定款第22条第2項の規定により議事録署名人を指名したい旨を述べたところ、出席者は異議なく賛成し、議事録署名人として南関東支部　佐藤富夫社員と東京支部　戸田裕之社員が指名され、被選任者もこれを承諾した。

議案決議の結果

第一号議案　定款一部変更の件

鈴木議長指名で、近藤専務理事が議案書に沿って説明を行い、審議の結果、賛成多数で可決された。

尚、本議案は、定款第20条第2項にあたるため、総社員数の3分の2以上（438名）の決議が求められるが、書面決議を含めた出席社員は508名あり、うち482名が賛成であった。（反対26名）。

以上をもって議事が終了したので、議長が閉会を宣言した。

時に15時25分であった。

定款一部変更

9月2日の臨時社員総会で承認されました定款の一部変更は下記のとおりです。

※変更箇所はゴシック太字です。

現定款	変更案
第２章　目的及び事業 （目　的） 第３条　本会は持続的発展をめざす企業・団体の事業相談・支援~~など~~を行い、国内外の経済・社会の発展に寄与することを目的とする。	第２章　目的及び事業 （目　的） 第３条　本会は持続的発展をめざす企業・団体の事業相談・支援**等**を行い、国内外の経済・社会の発展に寄与することを目的とする。
（事　業） 第４条　本会は、前条の目的を達成するため、下記の事業を行う。 （１）企業・団体の事業相談、支援に関する調査並びに研究	（事　業） 第４条　本会は、前条の目的を達成するため、下記の事業を行う。 （１）企業・団体の事業相談、支援**等**に関する調査並びに研究
第３章　会　員 （会員の構成） 第５条 （１）正会員　本会が実施する「経営士」資格取得の試験又は審査に合格し、資格の付与を受けて入会する個人 （２）準会員　本会が実施する「経営士補」~~及び~~「環境経営士」資格取得の試験又は審査に合格し、資格の付与を受けて入会した個人 （資格の付与） 第 12 条　~~経営士、経営士補、環境経営士等の~~資格の付与を望む者は、資格試験又は審査に合格しなければならない。	第３章　会　員 （会員の構成） 第５条 （１）正会員　本会が実施する「経営士」**及びそれに準じる**資格取得の試験又は審査に合格し、資格の付与を受けて入会する個人 （２）準会員　本会が実施する「経営士補」**、**「環境経営士」**及びそれに準じる**資格取得の試験又は審査に合格し、資格の付与を受けて入会した個人 （資格の付与） 第 12 条　**本会が認定する**資格の付与を望む者は、資格試験又は審査に合格しなければならない。
第７章　理事会 （職　務） 第 33 条　理事会は、次の職務を行う。 （１）本会の業務執行の決定 （２）理事の職務の執行の監督 （３）会長、副会長、専務理事、常任理事の選定及び解職	第７章　理事会 （職　務） 第 33 条　理事会は、次の職務を行う。 （１）本会の業務執行の決定 （２）理事の職務の執行の監督 （３）会長、副会長、専務理事、**業務執行**理事の選定及び解職
（会員の支部所属） 第 39 条　会員は本会に登録した住所あるいは勤務先所在地による地域の支部に所属するものとする。	（会員の支部所属） 第 39 条　会員は本会に登録した住所あるいは勤務先所在地による地域の支部に所属するものとする。 **２　会員の希望により、前項以外の支部に所属する場合は、理事会の承認を以ってそれを認める。**

理事会通信

＜令和４年度第４回定例理事会（抜粋）＞

記

１．日　時：令和4年7月15日（金）　13：00～14：30

２．会　場：本部会議室（ZOOM参加）

３．議　題：

第1号議案：9月2日開催予定臨時社員総会の件

鈴木会長が先の定時総会で廃案になった定款変更を早急に実施する必要を資料に沿って説明し、予定通りの日程で開催することが全会一致を以って承認された。尚、確実に3分の2以上の書面を集めるため綿密なスケジュールを立て、途中経過を共有することを確認した。

第2号議案：事業部の責任者とメンバー選任について

事務局が理事新体制に伴い事業部、委員会の担当理事、メンバーの変更を資料に沿って説明し、全会一致を以って承認された。

第3号議案（報告事項）：サスティナブル・マネジメント・センターについて

鈴木会長より新たに3名のナンバー、また、カーボンニュートラル排出権取引制度に関するプロジェクトチームが立ち上がった旨の報告があった。

第4号議案（報告事項）：資格審査委員会の内容、日程について

児玉理事より資格審査委員会からの資格審査説明会の内容と日程（7月30日開催）の報告があった。

第5号議案：本部オーバーヘッド活動への報酬制度の導入検討について

児玉理事より資料に沿って説明があり、非採算部門の活動に対する報酬を実態調査したうえで具体化する案が提出され、前向き検討することが承認された。

第6号議案：経営士養成講座雑誌広告掲載について

大蔵理事より経営士養成講座の広告を経営雑誌「経営診断」8月号掲載の依頼があり、全会一致を以って承認された。

第7号議案：日本経営士会PR動画作成について

三品理事より中部支部の既存の動画を参考に経営士会のPR動画を作成するべきとの提案があり、今後検討していくことが承認された。

第8号議案：役員、支部等の本部提出書類について

事務局から交通費清算書、出張申請書、事業計画書・報告書、稟議書等本部提出書類一式が提出された。

以　上

委員会・事業部委員一覧表

	委員・事業部名	担当理事	委員長	委　　員
	資格審査委員会 （経営士）	児玉充晴	島影教子	小林伸矢、堀脇　泰、日比慶一、宮高信之、 若村正志、串田敏美
	資格審査委員会 （環境経営士）	三品富義	福井　浩	菊次洋光（副委員長）、林　久雄、本田哲行、 宮高信之、梅津周子
	倫理委員会	豊政　茂	矢島隆志	有馬弘純、小林伸矢、西村　豊、藤井利侑
	広報委員会	豊政　茂	川西健雄	小松　功、表　伸也、粉川雅人、土橋留美子、 定野　淳、小林伸矢、若村正志、西尾英幸、 松橋裕子、戸田裕之、高橋直也
	経営支援事業部	高橋直也	横田英滋	小池基美男、大工原一樹、吉村祐紀、 善木　誠、佐藤茂樹、宇田川正徳、 板平憲洋 （顧問　高橋栄一）
MPP事業部	MPP委員会	三品富義	桒山一宏	日野隆生、福田幸雄、川西健雄、佐藤広文 （顧問　塚本裕宥）
共益事業	NJK女性経営士の会	近藤安弘	会長 吉村千鶴子	山下由紀子（副会長）、土橋留美子、 松永桂子、児玉充晴、山本カオル、 東ヶ崎鈴子、外岡圭子、水田裕子
	産能大寄付講座	大蔵充夫	佐藤富夫	
	AMCJクロッシング	竹俣大介	戸田裕之	江藤昭人、樋口弘之、堺　剛、石原群司、 西尾英幸、中里皓一、齊藤　潤、小林伸矢
	CSR環境事業	三品富義	福井　浩	菊次洋光（副委員長）、林　久雄、本田哲行、 宮高信之、梅津周子
	外部連携事業部	岩井美喜夫	大宮政男	佐藤富夫（副委員長）、石井眞也、稲葉直彦、 江藤昭人、渡部正司
	SDGs事業部	大蔵充夫	本田哲行	福井　浩（副委員長）
	選挙管理委員会		多賀吉令	臼井邦夫、古畑達雄、江藤昭人、 山本カオル

	会員管理 システムプロジェクト	近藤安弘	川西健雄	土橋留美子、戸田裕之

（令和4年8月19日現在）

2022年度「研究論文大募集」

― 包括テーマ ―

『CSR / CSV経営、SDGs、ESG投資』

～持続可能な世界へ、ビジネスと社会を変革する経営士の活動～

経営士全国研究会議は2年に1度の隔年開催になりました関係で、西暦偶数年度は論文発表会の開催を行います。本年度はサスティナブル・マネジメント・センターがスタートした年ですので、これに因んだテーマといたします。多数の応募をお待ちしております。

募集要領

■資　　格　：　一般社団法人日本経営士会　会員

■論文テーマ　：　①包括テーマに準拠するもの
②その他、経営士としてのコンサル活動をテーマにしたもの

■事前申請　：　応募を希望される場合は、2022年9月30日（金）までに
氏名、会員番号、支部名、論文のテーマを明記し、下記事務局メールアドレスに申請ください。
事務局メールアドレス：office@nihonkeieishikai.com

■執筆要綱　：　日本経営士会研究論文執筆要綱による（下段参照）

■論文締切り　：　2022年10月31日（月）

■応募方法　：　ワードで作成の上、メール添付またはデータを下記へお送りください。
〒102-0084　東京都千代田区二番町12-12 B.D.A.二番町ビル5階
事務局メールアドレス：office@nihonkeieishikai.com
TEL：03-3236-0691 ／ FAX：03-3239-1831

■日　　程　：
・9月30日（金）　エントリー締切
・10月31日（月）　論文締切
・11月中旬　　論文審査
・12月3日（土）　AMCJクロッシング 交流会にて優秀論文発表・表彰（ZOOM）

日本経営士会　研究論文執筆要綱

この論文執筆要綱は、日本経営士会が一般社団法人としてオープンな組織を目指し、会員の研究論文の社会的価値を高めることを目的に定めるものである。

＜形　式＞

◇原稿はパソコンで作成する。
◇文字字体は、MS明朝体で作成する。
◇原稿のサイズは、A4用紙縦置き横書きとし、余白は上下3.5センチ、左右3センチとする。
◇文字の大きさは、見出しについては12ポイント、論文要旨8ポイント、本文10.5ポイントとする。謝辞・あとがきは10.5ポイント、参考文献等8ポイントとする。
◇文章は常用漢字と現代仮名使いとし、アルファベットは活字体とする。
◇数字は半角数字を原則とする。ただし、見出し等については全角数字を許容する。
◇原稿枚数は、A4用紙8枚以上、10枚以内とし、ページ番号を記載する。

＜論文の構成＞

◇表　題　　◇要　旨　　◇本　文　（緒言、研究・調査方法、結果･考察、結論）
◇謝　辞／あとがき　　◇補注、図表、参考文献

＜表　題＞

◇表題（タイトル）は下記のように記載すること。
論文タイトル：○○○○○○○○○○○（副題がある場合にはカッコ書きで記載）
著者名：○○ ○○　会員番号：（○○○○）　所属支部・県会：○○○支部・○○県会

＜要　旨＞

◇要旨は、表題に続いて記述する。
◇要旨は、論文のおおよその内容を要約し、300字～500字以内で記述する。

＜本　文＞

◇本文は、要旨から2行をあけて記述する。
◇本文は、「緒言」「研究･調査方法」「結果･考察」「結論」の順に記述する。
◇「緒言」とは、本論文の意義や目的などを記述するもの。
◇「研究・調査方法」とは、研究・解析・調査など、実際に取組んだ手段･方法等について記述するもの。
◇「結果･考察」とは、研究・調査の結果、成果の考察、既知見との関係などについて記述するもの。
◇「結論」とは、研究･調査によって得られた結論に対する総合的な記述。
◇「謝辞／あとがき」は、本文に続いて、調査･研究･執筆における協力者へ感謝の意を述べる。（通常、研究などは協力者があって実現することが多いことから、社会通念上の礼儀として必ず謝辞を述べる）

＜補注、図表、参考文献＞

◇「補注」を必要とする場合は、本文該当箇所に番号等で明示し、参考文献の前に、一括して番号をつけて掲載する。
◇「図表」は、直接原稿に貼り付け、本文と図表を関連づける「図番号・表番号」をつけて記載する。
◇「参考文献」は、本文や補注で言及したもの、及び図表で引用した全てのものを、引用順に番号をつけて文末にまとめて記載する。（自著も含む）
記載の方法は、「著書タイトル」、「著者名（フルネームで）」、「出版社名」、「発行年（西暦で）」の順に記載する。
例：『地球環境論』平成太郎　日本環境出版社（2007年）
『JIS環境マネジメント2007』　日本規格協会（2007年）
なお具体的に引用をした場合には、上記の他に引用をしたページを記載する。
また同時に引用した箇所には、肩括弧で参考文献の連続番号を付記する。
◇インターネットからの引用は、「ホームページ名」、「URL」、「アクセス日」を明記する。

＜論文の制限および著作権＞

◇他の団体等に投稿した論文（明らかに同文と思われる部分掲載を含む）は受理しない。後日発覚した場合は評価の取り消しを行なう。
＊「団体等」とは規模の大小を問わず、財団法人、社団法人は勿論の事、学会、組合、市民団体を含めた広義の全ての集合体を指す。
◇当会に投稿した論文は、未発表のものに限る。経営士全国研究会議等における正式な発表までは、公表を禁止する。
◇研究論文の著作権は本人に帰属する。
◇研究論文の著作権の使用（複製権・翻訳権・出版権）については、一般社団法人日本経営士会に帰属する。ただし、本人が自らの用途に使用することについては制限しない。

第55期経営士養成講座を終えて

2022年5月28日から7月30日まで全10回の第55期経営士養成講座を中日本支部主催、千葉支部主管で7名の受講者を迎えて開催いたしました。

千葉支部が主管で経営士養成講座を実施するのは2回目ですが、折からのコロナ禍もあり開催があやぶまれましたが、無事開催にこぎつけることができました。今回は前回に比べて新たな取り組みを支部で行うため、今開催にあたり約1年の充分な準備期間をかけて行いました。

まず、ひとつ目はコロナ禍を受けたリモート開催の実現です。タイからの参加者がいたこともあり、リモート開催と完全Zoomによる実施を実現する必要がありました。

2つ目は支部でコンサル実務研修を実施するのは初めてであり、その実施の段取りをどう進めるかが課題となりました。その上、リモートで実務研修を実施し成果物をまとめなければいけないという難題がつく中で、どのように実務研修を進めればよいか検討を進めるにあたり大変難儀しました。

これらの課題を解決するために、いくつかの新機軸を導入することとしました。

① コミュニケーションツールSlackの導入とその上でセミナー運営システムを実現

② ローカルベンチマークを利用したコンサル実務のストーリー化

Slackは広く知られる一般的なコミュニケーションツールですが、それを講座運営と受講生、受講生間のコミュニケーションツールとして利用します。講座の案内、講義資料・課題の配布と提出、開催ZoomURLの案内や緊急連絡、課題の評価結果の還元など、従来メールで行っていた講座運営実務を一元的に利用可能なシステムとして構築しました。これにより講座運営の雑多な実務が10分の1に激減させることができました。

また、ローカルベンチマークの利用により、コンサル導入部のヒアリングの項目の（検討を省き、定型化した情報の取得と検討が可能となることで、コンサル導入部の立上げをスムーズにすることができました。

実際の講座運営の上では、実務研修で提案資料の検討、相互討議、資料作成をすべてSlackと関連ツールを利用することにより、オンラインで全てを実施することを可能としました。初回、企業ヒアリング当日、企業提案の2日はリアル開催として受講者のコミュニケーションをとりましたが、最終日はコロナ感染拡大を受けて、受講生のほとんどをリモートで提案に参加させることを急遽決定し実施するという対応も必要となりましたが、リモート開催プラットフォームがあるおかげで大きな混乱もなく実施することができました。

実施後の感想ですが。アンケート結果によると受講生、企業様とも大変満足いただけたとのことでした。運営に関してはリモート運営の不手際が多いとの問題点はありますが、これに関しては今後改善していきたいと思っております。これらの資産を活かして今後も様々なセミナーへの応用を考えております。

最後に対応いただきました企業様、ご支援いただきました本部および講師の方々、支部のメンバーに対しても厚く御礼申し上げます。

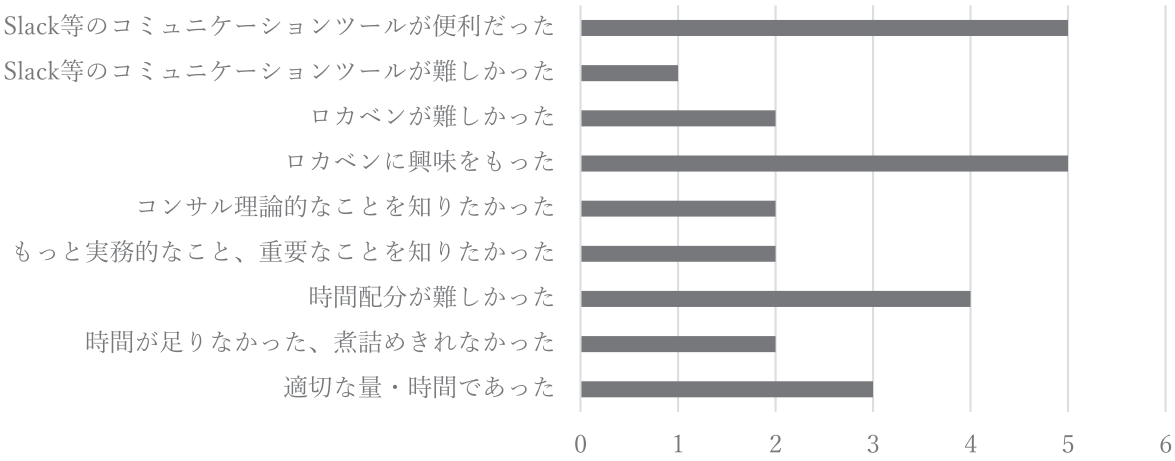
受講生講座の満足度

企業様満足度アンケート

1．今般実施した診断実習は、当社の評価は下記の通りです。
5段階評価（ 1．悪い　2．やや悪い　3．普通　4．やや良い　5．良い）

5

研修の内容についての感想



令和4年度 産業能率大学寄付講座開催

令和4年度産業能率大学寄付講座は8月13日（土）と14日（日）の両日、自由が丘キャンパス7号館にてリアル開催いたしました。

コロナ禍ではありますが、全国から17名の受講者にご参加いただき、熱心に講義を受けていただきました。

日本経営士会70周年の記念誌をもとに、産業能率大学と日本経営士会の深い絆をご理解いただきました。

特にケースメソッド（MPP）では活発な意見交換がなされ、リアルならではの意義ある講座となりました。

2日間に渡り、「実務家が教える中小企業経営」の各専門科目を履修し、また日本経営士会への入会に関する質問等も積極的にしていただき、卒業時には多数の入会が期待できます。

開催にあたりご協力いただきました産業能率大学のスタッフの皆様、講師の方々、アシスタントとしてご協力いただきました皆様にこの場をお借りしまして御礼申しあげます。

（寄付講座委員長　佐藤 富夫）

（講座のようす）

事業部・委員会活動

2022年下期「経営支援アドバイザー養成講座」開催案内

経営支援事業部

来春、中小企業金融が大揺れする懸念が出てきました。
近時、徐々に増加傾向を示す倒産件数、頭打ち傾向を示す融資残高。
コロナ禍で傷ついた中小企業の収益力はまだ回復していません。
その最中、いよいよ56兆円まで積み上がった「ゼロゼロ融資」の利払と返済が開始されます…

この2年間、掲題講座は経営革新や事業再構築主体でお届けしましたが、
今回は上記流れを受けて、中小企業の資金繰り・再生対策をメインとした内容でお届けいたします。
既存アドバイザーの方（リカレント）も是非、ご参加ください。

主なカリキュラム

1日目	認定支援機関制度	
	アドバイザー制度・更新ルール	
	経営革新他　経営支援諸制度	
	前向き施策・補助金（最新版）	
		事業再構築
		もの補助
		IT導入、持続化、事業承継他

2日目	財務分析（資産査定・粉飾発見）
	倒産・金融事情（特徴・動向）
	経営改善計画（405事業）1
3日目	**経営改善計画（405事業）2**
	再生支援諸施策
	資本制劣後ローン他 （補助金とローン比較）

状況によって、上記内容は変更されることがあります。

開催日：10月8日（土）、9日（日）、10日（月）
9:00〜17:00（1時間休憩）
Zoom形式（受講料振込者のみURLをお知らせします）
各日　ラスト30分で確認テスト、アンケート他実施
上記日程で参加困難な方にも後日動画配信します。
申込時に動画視聴希望日を事前に指定ください。
新規者受講料：3万円（財務分析不受講者：3,000円減額）
（リカレント受講料：一律3,000円）
本件は更新制度対象。受講者の有効期限：2026年3月末。（要申請）

最低催行人員　　次のいずれか充足要
条件1　新規者　8名以上
条件2　新規者　5名以上
＋リカレント　20名以上

申込先：事務局　竹下克美〈takeshita@nihonkeieishikai.com〉
氏名、会員番号、所属支部、メルアド併記
申込締切：9月30日（金）　14:00

経営支援事業部からのご挨拶

経営支援事業部　委員長　横田 英滋

認定支援機関業務を梃に経営士の皆様と中小企業・団体の活性化を目指します

日頃、お世話になっております。

この度、経営支援事業部　委員長を拝命いたしました横田でございます。

ご挨拶に代えて、当部がこれまで取組んできたこと、及び、これから取組むべきことにつき、若干のお時間をいただき、ご説明申し上げたいと存じます。

＊＊＊＊＊＊

「譬え」になりますが、経営支援事業部のお客様は直接的には経営士会会員の皆様であり、最終的には各会員を通して、それぞれが関与する中小企業・団体の皆様と考えております。

当部としては、この両者の活性化に、微力ながらお役に立てればと思っています。

高邁な理念も大事ですし、個人単位で目覚ましい活動しておられる方もいらっしゃいます。

しかし、会員の長期減少トレンドにある当会では、反転攻勢の為にも、それに加えて、会員全体の活性化が有効であると考えます。SMC活動と併せ、当部も寄与したく存じます。

当会は、認定経営革新等支援機関(以下、認定支援機関といいます)として国から認定され登録されています。

認定支援機関の業務範囲は補助金支援以外にも多岐にわたっています。

税務や企業再生業務の一部も認定支援機関は独占的に関与し、その業務を取扱うことが認められています。当該分野に関しては「公的資格者」そのものと言えます。

当部としても、これらの機能活用を会員の皆様に訴求して、会員全体の活動範囲を広げ、以って、当会自体のプレゼンスアップ、知名度向上などに貢献したいと考えています。

リカレント、更新制度、中小企業 119 専門家　など

1. リカレントと更新制度

当会内で認定支援機関業務を行う為には、経営支援アドバイザーの養成講座を受講し、修了する必要があります。当部では原則として上下期各1回講座を開催しています。

昨年から、既存アドバイザーにも本講座受講を可とし、知識をアップデイトする仕組みを導入しました。それがリカレント制度であり、会員の活性化が究極的な狙いです。

また、この制度を今回のアドバイザー更新制度とリンクさせました。つまり、資格取得後3年内に①中小企業支援の実践、または②アドバイザーとして再学習することを「資格更新の要件」としました。本制度の狙いや仕組につきましては、本誌7・8月号を参照ください。

2.「中小企業119」の専門家登録

今般、「ミラサポ」の専門家派遣制度が改正されて「中小企業119」となりました。

前制度でも所定の支援機関であった当会は、しかし、制度改定により会員の皆さんを事業者に派遣することが出来なくなりました。

が、会員の皆さまを専門家として推薦し登録に道を開くことは引続き可能です。

一旦、専門家に登録されれば、全国2千件の支援機関から派遣を受けることが可能になります。これもまた、会員の方の活性化に資すると思われます。

但し、実績を主体とした所定の登録要件があります。また、申請始め手続きの大半がスマホ/LINEで行う為、相当程度の知識と習熟が必要ですが、これらに抵抗ない方は、是非、トライされてはいかがでしょう。詳細は後日通知いたします。

中小企業の今後、喫緊の課題　～企業再生・中小 M&A など

今回のコロナ過で、大半の中小企業は所謂「ゼロゼロ融資」を調達しました。その金額は、なんと56兆円！（GDPの約1割規模、メガバンクに次ぐ4番目の銀行出現となるレベルです）に及びます。

この巻き返し、即ち、「利払や返済」が来春から始まります。

現状、最大で2割近い企業が返済困難になるとの予測もあります。

さあ、認定支援機関の出番です。ここに焦点を合わせた、10月開催の養成講座については別記事を参照ください。

今こそ、事業継続・再生等数々の各種手法を駆使して、プロとして支援を行い、中小企業のお役に立つ時です。

技術力や特産品、地域の雇用等を守るために、単独では存続困難な企業にはM&Aも一つの選択肢となります。当会も昨年「中小M&A支援機関」として国に登録されました。経営支援事業部としては希望者を募り、M&A支援チームを組成する準備を進めています。

皆さまも、色々お忙しいことと存じますが、もしお手伝いいただけるなら有難いです。

特にM&A業務関与経験者、税務・法務・労務関係者大歓迎です。ご希望の方は、自薦他薦問いませんので事務局までお声をかけてください。若干の報酬も予定しています。

共に、当会を活性化して行きましょう。

今後とも、経営支援事業部をよろしくお願いいたします。

＊お知らせ＊

2023年版「経営士手帳」は次号（11月・12月号）に同封いたします。

事業部・委員会活動

環境経営士フォローアップセミナー本部開催報告

CSR環境事業部

CSR環境事業部　福井　浩

環境経営士は時代が移るにつれて、環境関係テーマは種々変わっていくので環境経営士の皆様にはフォローアップセミナーを本部、支部で開催をしています。

本部開催では7月に2回開催しました。その折の状況をお伝えします。

①RE100宣言を日本で最初に登録された御殿場の株式会社リコー

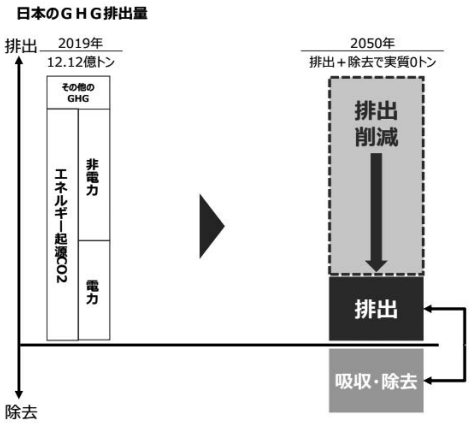
リコー環境事業開発センター見学

7月1日（金）午後リコー環境事業開発センターを見学、参加者は近藤安弘専務理事を含めて欠席者などいましたが最終的に6人でした。リコー環境事業開発センター訪問は昨年にも本田哲行CSR環境委員が引率しましたが、途中コロナの影響で中止され久しぶりに再会した現場研修セミナーでした。リコー環境事業開発センター長出口　裕一氏は経営士で環境経営士です。なお株式会社リコーが日本企業としてはじめてRE100への参加を表明したのが、2017年4月のこと。以降、2022年2月現在、日本企業の参加は65社となりました。海外企業も含めると、現在、RE100にはグローバルで300社を超え、国別で日本は米国に次ぐ世界2位の社数を誇ります。

②「カーボンニュウトラルと日本の政策」について

講師は経済産業省産業技術環境局環境政策課環境経済室総括係長　仲野　健太氏

開催日は7月14日（木）午後6時半から約1時間のZoomセミナーでした。環境経営士のみでなく経営士の参加も可能でしたので、鈴木和男会長はじめ30人が熱心に聞いていました。カーボンニュートラルとは温室効果ガス排出量から吸収・除去量の差し引き全体としてゼロにすることです。



セミナー内容は

●カーボンニュートラルに向けた海外動向や企業環境の変化

●クリーンエネルギー戦略など直近国家戦略の動向

●2050CN実現に向けた金融施策－TCFD－トランジション・ファイナンス

詳細はホームページ「環境経営士」で検索「環境経営士専用ページ」からCES14で見れます。ただしこの情報はそのままで利用しないように仲野講師から言われています。

事業部・委員会活動

サスティナブルマネジメントセンター（SMC）の活動

SMC-SX･GX研究グループ（SDGs事業部）

一般社団法人日本経営士会は、横浜市立大学・CSR＆サステナビリティセンター LLC殿とSDGsの推進に向けて緊密な相互連携と協働による活動を推し進めております。

本年度（9月～ 12月）に於いても以下のご案内の通り横浜市立大学 後期エクステンション講座を公益財団法人横浜企業経営支援財団との共催で開講する運びとなりました。つきましては皆さま方のご参加をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

― 記 ―

1. 2022年度 横浜市立大学 後期エクステンション講座のご案内

共催：（一社）日本経営士会・（公財）横浜企業経営支援財団（予定）

講座番号 359

CSR･CSV経営、ESG投資･経営へ

～経営士による、サステナブル経営の系譜と経営戦略へ～

（公財）横浜企業経営支援財団（中区日本大通11 横浜情報文化センター7階）

金曜日 17:30～19:00

講師

横浜市立大学
国際教養学部教授
影山 摩子弥

（一社）日本経営士会
会長（代表理事）
鈴木 和男

CSR環境事業部 事業部長
福井 浩

SDGs事業部 委員長
本田 哲行

経営支援事業部 委員長
横田 英滋

企画監修

横浜市立大学
国際教養学部教授
影山 摩子弥

SDGsは、企業にとってCSRの一環であり経営戦略です。現代社会は、企業に企業市民として社会課題に取り組むことを求めており、それに応えることによって企業は経営継続が可能となります。SDGsは中小企業にとっても重要です。社会にいかに向き合ってるかを顧客企業や消費者が求めるからです。本講座では、経営士が現代に必要な経営戦略について講義するとともに、それを実践するためのワークショップを開催します。

受講料	3,500円
定員	20名
対象	一般

全7回

第 1 回	9月30日
第 2 回	10月14日
第 3 回	10月28日
第 4 回	11月11日
第 5 回	11月18日
第 6 回	11月25日
第 7 回	12月9日

[YCU | 横浜市立大学 後期エクステンション講座より抜粋]

2. 受講のご案内・Web申込み・注意事項など

1）令和4年度後期エクステンション講座リーフレット：
https://www.yokohama-cu.ac.jp/ext/outline/aoilqi00000007cf-att/EXTENSION2022_Autumn.pdf

2）Web申込先行開始：　8/22（月）9：30～
https://www.yokohama-cu.ac.jp/ext/

3）TEL・FAX等申込開始：　8/24（水）9：30～
https://ssl.smart-academy.net/ycu/course/list/

4）エクステンション講座についてのお問合せ
☎ 045-787-8930（受付時間：平日 9：30～16：30）
✉ メール：exten@yokohama-cu.ac.jp

[SMC-SX･GX研究グループ（SDGs事業部）：本田 哲行]

事業部・委員会活動

2022年（令和4年度）NJKフォーラムのご案内

NJK女性経営士の会

日本初のキャリアコンサルタント、創業30周年を迎えた、株式会社ハナマルキャリア総合研究所 上田晶美先生をお迎えして、女性創業者としての視点やチームづくりについてお話頂きます。

リアルとオンラインZOOMのハイブリットセミナーとなります。リアルでご参加の皆さまは座席数に限りがございますので、お早めにお申込み下さい。皆さまのご参加お待ちしております。

■講　師

株式会社ハナマルキャリア総合研究所　代表取締役　上田 晶美先生

株式会社ハナマルキャリア総合研究所　代表取締役
財団法人女性労働協会　理事、1993年より日本初のキャリアコンサルタントとして起業。
今年で30周年。現在キャリアコンサルタントが100人所属する専門会社を渋谷で経営中。自身も年間100講演を行う。講演テーマは女性のキャリア支援を中心に学生の就活、企業研修なども。二男一女（全員成人）の母として子育てにまつわる講演多数。
東京都内の2大学校で非常勤講師
読売新聞「就活on」日本経済新聞夕刊「就活のリアル」連載中
著書21冊、SNSはあらゆる媒体に対応しYoutube、TikTokも
1960年　山口県生まれ
1983年　早稲田大学教育学部卒業

■テーマ「小規模事業を30年続けるチームづくり -長所を活かす経営-」
創業30周年を迎えた女性社長に聞く
「小規模事業のチームづくりの取り組みや成功の鍵」
これから起業する方への応援と後押しになる企画です。

開催日：令和4年11月6日（日）15:30～17:30（開場15時00分から）
会場参加：〒102-0084 東京都千代田区二番町12-12 B.D.A二番町ビル5階
日本経営士会 本部会議室
オンライン参加：ZOOMで開催（ZOOM招待URLはメールにて別途ご連絡致します）
電　話：03-3239-0691（代表）
対　象：どなたでもご参加頂けます。
会　費：会員 2,000円・一般 3,000円
※会場参加、オンライン参加のどちらかをお選びください。会費はどちらも一緒です。

お申込み：以下の①～③いずれかの方法でお申込み下さい。
① NJK女性経営士の会 吉村へメール：yoshimurachizuko@gmail.com
② 本部へメール：office@nihonkeieishikai.com
③ 本部へFAX：本部FAX 03-3239-1831
※氏名・会社名・ご住所・電話番号・e-mail・会場参加orオンライン参加を記載の上お申し込み下さい。
※振込口座は下記でお願い致します。（お振込み期限 10月31日（月））
三井住友銀行　麹町支店（支店番号：218）　普通預金　7166277
一般社団法人日本経営士会（ニホンケイエイシカイ）
※振込手数料はお客様負担でお願い致します。また領収書は振込のご利用明細書をもちまして領収書に代えさせていただきます。

支部活動報告

北関東支部茨城県会　7月例会開催

北関東支部　茨城県会

開催日時：2022年7月30日
会　　場：ひたちなか商工会議所　会議室

● 一般社団法人　茨城県中小企業診断士協会　会長　宮田貞夫　様にご来訪いただき、県内経済状況など、竹俣ブロック理事・幡谷県会長ら、参加県会員と、意見交換を行った。また、県中小企業診断士協会と本県会が連携して、勉強会見学会などの共同事業開催を進めてゆくことで、宮田会長からも賛意の言葉をいただいた。

● 県会・支部・本部関係連絡事項の報告を行った。特に、10月19日・20日の北関東支部MPP、9月24日茨城県会公開MPPについて、多くの参加者を得ていきたい旨の発言があった。公開MPPのケーステーマについては、鈴木県会員をリーダーに作成されたトライアルケース「持続性のある事業展開を進める為の提言（接客担当者の時給を上げたい）」を採用する方向となった。

● 10月・12月の例会開催時に、「日本経営品質賞　アセスメント基準書」に関する勉強会の開催が検討・了承され確認をいただいた。内容は「経営品質の向上　1.基本理念　2.重視する考え方」について。勉強会の進行は大内会員が中心となり、経営品質について理解を深める場として参りたい。大内会員よろしくお願いします。

8月・11月は例年通り休会とし、各自健康に留意して過ごすことを確認し散会した。

後列：大内雅功会員　幡谷貞賢県会長　塚本裕宥会員　鈴木勇会員
前列：竹俣大介東日本ブロック理事　診断士協会宮田貞夫氏

支部活動報告

北関東支部新潟県会　第33回公開MPP

北関東支部　新潟県会

北関東支部新潟県会長　磯部 正美

新潟県会　第33回　公開MPP

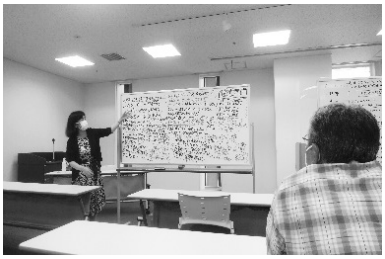
日　時	2022年7月9日（土）　13：30 ～ 16：30（3時間）	
会　場	長岡市　まちなかキャンパス長岡	
出席者	新潟県会	磯部県会長、渡辺副会長、木村副会長、西山副会長、粉川会員、鈴木会員、桑山支部長
	東京支部	日野会員
	一般参加者	南口誠氏、勝身麻美氏、山口勇気氏、本間透修氏、本間美香子氏、原沢亮太氏

今年度最初の第33回公開MPPを会員参加者8名、一般参加者6名で長岡市まちなかキャンパス長岡で開催しました。ケースは新潟県会MPPケース研究会のトライアルケース「文具店の経営改善」を使用し、Aチームは5名、リーダー西山会員、レコーダー本間（美）氏、Bチームは4名、リーダー渡辺会員、レコーダー勝身氏、Cチームは5名、リーダー磯部会員、レコーダー原沢氏の3チームで討議を行いました。

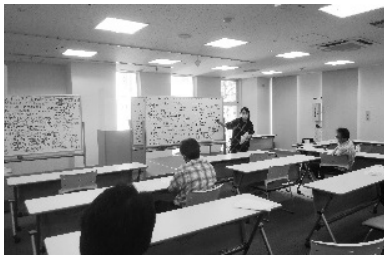
ケース概要は「地方都市にある文具店B（株）は路面小売店部門と学校・企業向けOA関連機材や消耗品を販売する業務部門を持つが、近年の販売環境の厳しさから売上減少・資金繰りに困窮し、地元銀行とは1年間の暫定リスケジュール後も改善みられずリスケ期間の延長となっている状況」です。今回のケースの設問は「B文具店の経営改善の具体策」について経営士チームに助言を求めています。

Aチームは人・物・金の面で現状分析し、短期的には経営改善のための販路、販売方法等の見直しを行い、長期的には地域のDX化の先駆者を目指すことを討議。Bチームは当面の銀行対策として均衡縮小策の店売りの廃止、人員削減、役員の報酬見直し及び2代目社長のリカレント教育を実施。今後の計画としては時代に合ったサービス提供のための施策を討議。CチームはB文具店を生かす道としてリストラ実施後はビジネスモデルとしてBtoBに集中し、新しい人材と協力企業とでDXソリューションサービスを目指す。代案として会長から独立し35才社長を中心に新会社設立案も討議しました。

終了後は3チームの発表と質疑応答を行い、新潟県会MPPケース研究会の木村会員からB文具店の実際の銀行対策と長期対応についてのケース解説が行われました。MPP終了後は会場を移し、会員、一般参加者との情報交換と懇親を深めた有意義な一日となりました。



（Aチーム本間（美）氏 発表風景）



（Bチーム勝身氏 発表風景）

（Cチーム原沢氏 発表風景）

千葉支部活動報告

千葉支部

両日とも新型コロナウイルスの感染拡大傾向を受けて、ZOOMとリアルのハイブリッド開催とした。

開催日　：　6月26日（日）
会　場　：　Zoom会議＋公民館会議室（ハイブリット方式）
議　題　■第一部
幹事会・運営委員会
① 第68回定時社員総会及び理事・支部長会議報告
② 第55期経営士養成講座の実施状況報告
③ 支部運営について
■第二部
3Cの会
※WINDOWSの説明あり。
普段何気なく使っているWINDOWSでもいろいろな使い方があり、知っていると使い方も便利になる様々な利用方法の説明を受けた。

開催日　：　7月31日（日）
会　場　：　Zoom会議＋公民館会議室（ハイブリット方式）
議　題　■第一部
幹事会・運営委員会
① 拡大理事会・支部長会報告
② 千葉支部運営体制について
③ 3Cの会について
④ 第55期経営士養成講座の完了報告
■第二部
3Cの会
※イグジットプランナーの説明あり。
従来の事業承継にとどまらず、企業の（税法上以外の）価値を向上させる人的資産・顧客資産・構造資産・社会関係資産という無形資産に着目し、多面的なコンサルティングを行う専門家。

以上

支部活動報告

日×比を生きる人々のストーリーを発信するSDGs活動のご紹介

南関東支部

環境経営士　森　裕子

会員の皆様、COVID-19にも負けず、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は2010年に人材と環境分野をドメインとしたコンサルティング業で独立し、2016年から、主にミャンマーを対象とした若手エンジニアの来日就労支援を行ってきました。事業の拡大は難しく、当該国の政治混乱等もあり現在は休業状態となりましたが、海外事業を始めたことで、ミャンマーの他スリランカ、インド、ネパールなど、様々なアジアの人々との交流を深めてきました。今回は、フィリピンにルーツを持つ長谷川大知さんという若者の「Music For People Project」についてご紹介させてください。

資料：https://drive.google.com/file/d/1OzLxjJMhSjpHjCFqLu-b2VzwTmchfzBF/view

Z世代　長谷川さんの紹介

長谷川さんは幼い頃から音楽を愛し、高校から大学まで軽音部に所属。コロナ禍に、人間の発話器官を使って音楽を創りだすヒューマンビートボックスに出会い、その音楽表現に魅了されました。現在はビートボクサー兼シンガーとして楽曲を制作しSNSで配信しています。

長谷川さんは、家庭の事情で、フィリピン人の母親と一緒に日本で生活をしてきました。主に家庭内ではフィリピン文化をベースとして、学校や友人達との関わりの中では日本や様々な文化の環境下で育ちます。家の中と外での価値観や言語、習慣の違いは、幼い長谷川さんにとって、家庭内での衝突の原因となりました。また、この日本において、日本人らしさを感覚で覚えながら日本人として生きていても、周囲からはそう見られていないと感じることもありました。そんな時、「自分は理解されず、**自分のアイデンティティはどこにも所属していないのだ**」と感じてしまうことが度々あったそうです。母親の勤め先のフィリピンパブに連れられ、人前で歌うことは、悩みを抱えた時の長谷川さんの心の拠り所となりました。

お母さんに抱かれる幼少期の長谷川さん

自分は一体何者なのか――。解決できない心の悩みを抱えたまま成長した長谷川さんは、ある時、日本人とフィリピン人の間に生まれた「ジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレン：JFC」と呼ばれる人々の人生をエッセイにまとめた書籍に出会い、ケン・イシカワさんという男性のストーリーに目が留まります。そこには、JFCとして懸命に生きてきたケンさんが、アイデンティティに疑問を持ち続けたことで自らJFCを訪ね、彼らが同じような悩みを抱えていることを知り、自分は1人ではないと感じることができた姿が描かれていました。ケンさんのストーリーに触れたことで、「これまで感じていた悩みに対する孤独感が消え、心が楽になった」という長谷川さん。この体験をきっかけに、アイデンティティに悩むJFCのストーリーをJFCに向けて発信していくことで、「自分は1人じゃない」と思ってもらえることができないかと考え始めます。

社会課題解決型クラウドファンディングへの挑戦

大学で国際関係学を専攻していた長谷川さんは、卒業制作で、在日JFCの若者をテーマにビートボックスの楽曲を作成しライブで発表します。卒業後、さらにこの取組を昇華させようと一念発起。JFCへ自らインタビューを行い、彼らの悩みや葛藤、アイデンティティの問題を一つのストーリーにまとめ、それらを元に作曲した音楽の作成過程を納めたドキュメンタリーを制作する「Music For People Project」を立ち上げました。

プロジェクト開始後、企業スポンサーを募りながら、「For Good」という社会課題解決に特化したクラウドファンディングを活用して、本年7月に活動資金の調達にチャレンジしました。プロジェクトには多くの賛同をいただき、ひと月以内に見事目標金額の100%に到達。年内には、長谷川さんが制作したドキュメンタリーが公開される予定です。

SDGsゴール4.10.16に通じる活動

私が長谷川さんと出会い、初めて長谷川さんの活動についてお話を伺った時、ミックスとして生まれた人たちにはこのようなアイデンティティに関する悩みがあるのかと、軽い衝撃を受けました。私は、私が生まれ育ったこの日本という国に誇りを持っています。この国に生まれたこと、そして先人たちがこの国を築いて下さったことに心から感謝しています。しかしもし私が、生まれながらに二つの国の権利を持ち、そして自身の出自により、自身のアイデンティティに悩み、揺らぐことがあったとしたら――。私は、私自身のアイデンティティを見出しているからこそ、この問題に強く関心を持ち、長谷川さんの活動に共鳴しました。現在はメンターとして、長谷川さんの活動を多面的にサポートしています。

「Music For People Project」の目的は、「音楽の力で 違うバックグラウンドを持っていても理解し合える社会を作ること」―です。今後、一層多様化が進むであろう日本に於いて、ミックスとして生まれた子どもたちが日本で生きていくことを選択したとき、この国を愛してもらえることはできるでしょうか。万国共通の音楽を通じて、二つの国の狭間に生きる若者の葛藤や思いを、当事者だけでなく多くの人たちに届けることで、共感や理解を深め、彼らのアイデンティティを肯定してもらうきっかけが作れることを期待しています。

支部活動報告

中部支部6月～7月活動報告

中部支部

◆ECO研究会

テーマ：「戦略的CSRと企業経営」

講　師：江口敬一

開催日時：2022年6月5日（日）13：30～15：30

ZOOMオンライン　　参加者：8名

戦略的にCSRを取り込み、いかに営利につなげるかを主題とした。「eco」は、本来ecologyとeconomy両方の意味を持つが、ecologyへ偏重した定義の定まらない環境経営への危惧も副題とした。「企業として社会的責任にコミットしなければ、事業の継続も人材の獲得もままならない」は、環境活動家の論理であって経営の理論にはならない。社会課題と自社事業を統合し、生産性向上と収益増大の手順を示してこそ、環境経営でありコンサルティングである。「沈黙の春」を起点に、LOHAS、CSV、SDGsをファクトに時代背景、マーケティング1.0から3.0への変遷を事例で振返り、社会軸、事業軸、自社軸からマネタイズする仕組みを論じてみた。CSRブランディングの成功例として「THE BODY SHOP」を、失敗例として普通名詞化した「LOHAS」を商標登録し、反社会的行為との非難を受けた某出版社、某商社の商標権使用料事業を取り上げ、SDGsを例に普通名詞＋固有名詞の商標登録手法の是非も課題に取り上げた。戦略的にCSRを活用する前提として、企業統治、法令順守等の基本的マネジメントの重要性も強調させていただいた。

（記：江口敬一）

◆経営研究会

テーマ：「経営診断・経営改善計画・事業再生計画等の様式と実例」

講　師：近藤守邦

開催日時：2022年6月19日（日）13：30～15：30

ZOOMオンライン　　参加者：14名

中小企業診断士としての活動実績から、実際に中小企業に赴いてどのような方法で経営診断を行っているのか、実例を交えながらその手法をレクチャーしていただきました。特にクライアント企業を取り巻く外部環境や、企業内部の問題点を抽出する際のコンサルタントとしての心構えや広い知見の具有必要性などは、日ごろからの情報収集活動の重要性を痛感させるに余りあるものでした。経営診断の結果から経営改善計画、更には事業再生計画等へ展開する際の複雑難解な各種様式についても、事例を交えてできるだけ平易に説いていただきました。

◆経営コンサル塾（第1回）

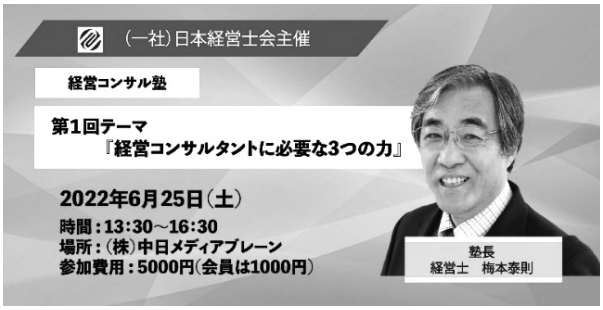
テーマ：「経営コンサルタントに必要な3つの力」

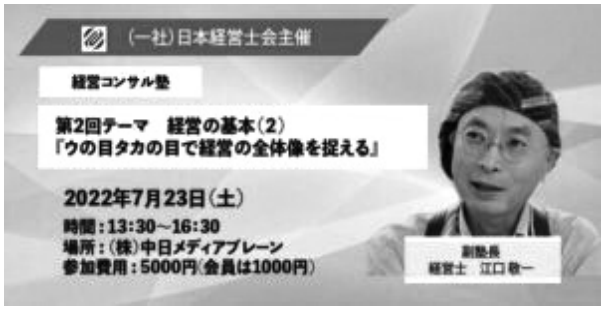
講　師：梅本泰則

開催日時：2022年6月25日（土）13：30～16：30

開催場所：（株）中日メディアブレーン5階研修室　　参加者：9名

6月から3月までの間、月1回のペースで経営コンサル塾が支部主催にて10回開催されます。第1回目は、塾長の梅本氏に『経営コンサルタントに必要な3つの力』をテーマに講師を務めていただきました。先ず、氏がコンサルタントになったきっかけを導入口に、コンサルタントに必要かつ基本的な能力として『書く力・話す力・聞く力』の3つの力の必要性を説いていただきました。その後、ワークや実際のコンサルティングの事例を通して、3つの力をどのようにして磨いていくべきかという重要性も学ぶことができました。





◆経営コンサル塾(第2回)

テーマ：「ウの目タカの目で経営の全体像を捉える」

講　師：江口敬一

開催日時：2022年7月23日(土) 13：30～16：30

開催場所：(株)中日メディアブレーン5階研修室

参加者：9名

経営コンサル塾第2回目は副塾長の江口氏に「ウの目タカの目で経営の全体像を捉える」をテーマに講師を務めていただきました。

経営コンサル塾は、これからコンサルタントとして活躍しようと思われる方を対象にしていますが、現役のコンサルタントの方にも知見のブラッシュアップにも繋がる内容になっていますので、今後、多くの方々の参加を期待しています。

◆ICT研究会

テーマ：「意外と知らないオンライン講師のスキル」

講　師：三品富義

開催日時：2022年7月9日(土) 13：30～15：30

開催場所：(株)中日メディアブレーン5階研修室
及びZOOMのハイブリッド

参加者：6名

Withコロナにおいて、オンラインは日常となった。当初は顔出しをするという気恥ずかしさがありましたが、そんな躊躇いを感じる間もなく、コロナ感染拡大により、オンラインというツールも急速に広がることとなりました。このオンラインを利用したセミナー等は、ネット回線があれば誰でも講師として開催できます。しかし、それがネット回線の不安定、音声のハウリングや他人の雑音、講師の服装・画角・照明の見苦しさ、画面共有の段取りの悪さなどにより、折角の講義や会議で、がっかりすることが多く発生しているのが現状です。

日本経営士会の会員が、オンライン講師として視聴者側に失望させず、更には有料でもオン

ラインセミナーができるよう、いくつかのポイントを押さえたスキルアップの必要性を新たに認識・確認しました。特にオンラインには、遠方の方が時間や交通費をかけなくても参加出来るという大きなメリットがあるので、リアルでなければならない面を出来る限り排除する努力が必要などとお話いただきました。

◆第8回　環境経営士フォローアップ研修会開催

開催日時：2022年7月16日（土）10：00～16：30

開催場所：（株）東伸サービス（豊田及び日進プラント）

参加者：6名

環境経営士のフォローアップ研修を、産業廃棄物処理業をされている（株）東伸サービス様の現地視察研修会という形式で実施しました。

＜研修概要＞

会社の現況の説明を受けた後、現地視察を実施。その後、グループディスカッションにより経営課題の抽出と改善案の検討、提案内容をまとめる。

・現地視察：（株）東伸サービス　日進プラントを現地視察

・現況の説明：石川環境経営士による会社紹介、プラント概要等の説明

・研修会：短期・長期の課題を抽出し、SDGsをベースに改善案を検討・提案。

終了後、参加者からは、研修会の目的や達成度に、概ね良好の評価が得られました。また、今後は参加対象者を拡大して、外部視察研修会の継続的な実施、更には他のテーマでの開催希望などの意見もありました。

◆コンサル研究会

テーマ：「コンサルタントに必要な伝える力
～声と話し方～」

講　師：奥村まみ子

開催日時：2022年7月30日（土）13：30～15：30

開催場所：（株）中日メディアブレーン5階研修室
及びZOOMのハイブリッド

参加者：8名

（講師：奥村まみ子）

コンサルティングの場面において、必ず必要な話すチカラ。意識をしているか否かで、「伝わり方」は変わります。普段、話し声ボイストレーナーとして、全国で活動する中、声の印象が変化することで、どのようにクライアントの変化が起きたのか？という実例を踏まえながら、実際のワークを通じ、参加者の声に対する意識向上に向けたトレーニングの時間でした。自らが放つ印象をコンテキストという視点で俯瞰して観察。呼吸を意識することで説得力が上がる、表情も意識しながら気持ちを込めて話すと感情が伝わりやすい、など、具体的なトレーニングで、声の印象のビフォーアフターの変化を実際に感じることができました。見えない声だからこそ、意識をすることで印象力を高めることができそうです。

インフォメーション

2022年度今後の行事・講座・セミナーのご案内

行事･研修･セミナー	日　時	開催場所	詳　細	申込方法等
第56期 経営士養成講座	9月10日(土)～ 合計10回	本部会議室 ZOOM	受 講 料：220,000円	事務局にご連絡ください。
第72回環境経営士 環境経営士養成講座 ベーシックコース	9月17日(土) 10:00～17:30	ZOOM 配信	受 講 料：13,000円	事務局にご連絡ください。
山梨秋季公開MPP	(1) 9月18日(日) (2) 9月23日(祝金) (3)10月 2日(日)	韮崎市民交流 センター	1回　1,000円	3日間共 ① 9:30～ ②13:30～
第72回環境経営士 環境経営士養成講座 アドバンストコース	9月23日(祝金)・ 24日(土) 10:00～17:30	ZOOM 配信	受 講 料：25,000円	ベーシックコース 受講者22,500円
経営支援アドバイザー 養成講座	10月8日(土)～10日(祝月) 3日間	ZOOM 配信	受 講 料： 新規 30,000円 リカレント 3,000円	事務局にご連絡ください。
NJKフォーラム	11月6日(日) 15:30～17:30	本部会議室 ZOOM	受 講 料： 会員 2,000円 一般 3,000円	事務局にご連絡ください。
山梨テクノICTメッセ 2022	11月11日(金)～12(土) 10:00～17:00	アイメッセ山梨	——	——
メッセナゴヤ2022	11月16日(水)～18日(金) 10:00～17:00	ポートメッセなごや	——	——
MPPリーダー 養成研修	11月19日(土) 10:00～17:00 (懇親会あり)	新　潟 東映ホテル ユニゾンプラザ	受 講 料：34,000円	宿泊あり
MPPリーダー 養成・更新研修	11月20日(日) 9:00～16:30	新　潟 東映ホテル ユニゾンプラザ	——	宿泊あり
2022年度 経営士論文発表会	12月3日(土) 10:00～12:00	ZOOM 配信	——	——

会員の皆様へお願い

住所変更、メールアドレスなど諸変更が生じましたら速やかに事務局オフィスあてoffice@nihonkeieishikai.comにご連絡をお願いいたします。
今後メールにてお知らせ・ご連絡させていただく機会が多くなりますので、有効なメールアドレスを是非お知らせ下さい。

（本部事務局）

訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
会務に多大のご尽力をされました。

＊阿部 幸男（NO.4096　南関東支部）令和4年7月15日没（享年79歳）
＊島崎 訓男（NO.1720　九州支部）令和4年6月26日没（享年81歳）

Management Consultant

経営に知恵と革新 Intelligence and Innovation in Management